

三月三月は「桃の節句」女の子のお祭り。昔々の家では二月から先月のひな人形を飾ってあります。

いふもいれませんが、女性の場合、ひな人形は一生飾るもので、男性の場合、鯉のぼりや武者人形は十五才まで飾るといふことを何の前にも、とががあります。

ひな人形の「男」と「女」の位置ですが、昔は「あつて右が、おひな」で、左が「めひな」に、しり、日本が段々外国の考えを取り入れられるようになってから、むが左が「男ひな」で、右が「女ひな」を変わったようです。ですから、結婚式の基の、むが左が新郎、むが右が新婦になつてゐるのです。

三人官女の中のまん中に位置してゐる人ですが、三人の中で、この人だけ眉毛がありません。結婚したら眉毛を剃るといふ風習があるからだとさうです。ひな人形を飾っている人は、家に帰るとよく見て下さい。

そして、三月三月を過ぎると、すぐひな人形は片付けてしまふのだ、ながながお嫁に行け、といわれて、ながなが、片づける時間、ながなが、



ひな人形を全て後ろ向きにするとういふ、です。

夏のうだるような暑さと、冬の寒さが、厳しく、この校舎で、みかえは、よく勉強してきまう。夏休みの補充授業、先月は、夕オレを首にかけ、授業をしきりした。廊下とベランダに照りつける太陽の熱で、教室の中はムシムシ、紫外線を浴びて、身や顔は日焼け、顔のそばかすも増え、冬、先月の、学校へ来て、経験した冬、スカートなんて、はいて、いられ、足、足、指、指、も、か、か、で、さ、さ、さ、寒風のため、顔が、カサカサ、化粧を落とすと、見られた顔にやありません。

あんなに、遠くまで、吹き、北風が窓のすき間から吹き込み、ノートのピラピラと、ゆれるのを、何度も目ぼ、ま、た、教室の中も外と同じように、寒かため、授業中、トイレに行く人が多、た、と思、ま、た、板野郡内、一番、校舎の悪、い、板野郡学校で、勉強に、励、あ、た、達、は、ま、た、す、は、ら、い、忍、耐、力、を、身、に、付、た、こ、の、よ、う、。

季節は、段々と春に、向、か、つ、て、進んで、い、ま、す、菜の花畑が、黄色に、色、つ、き、菜の花を、摘、んで、い、る、農、家、の、人、を、見、つ、け、ま、す、昔、は、ナ、タ、ネ、を、採、り、て、油、に、火、を、と、り、て、夜、の、明、が、り、に、し、て、ま、た、だ、ら、今、よ、り、も、と、も、と、広、い、菜の花畑が、た、ま、に、あ、る、の、で、す、現、在、は、菜の花の、つ、ぼ、み、を、摘、み、取、り、ス、ー、パ、の、店、先、に、並、べ、り、ま、す、お、ひ、た、に、し、ら、と、ま、お、い、い、で、す、ね、も、う、す、吉、野、川、の、堤、防、の、菜の花が、満、開、に、な、り、ま、す、目、の、覚、め、る、よ、う、な、黄、色、い、じ、や、う、た、ん、に、皮、身、す、る、の、で、す、青、い、水、の、流、れ、ど、黄、色、い、菜の花が、と、ま、ま、よ、く、似、合、う、季、節、が、や、ま、ま、す、。



三月五月は「啓蟄」。啓蟄とは、冬ごもりがは、い、あ、る、こ、ろ、と、い、う、意、二、十、四、節、気、の、一、つ、陰、暦、は、二、月、の、前、半、太、陽、暦、は、三、月、の、五、六、日、に、あ、る、。



豊田君、私、の、取、扱、物、話、の、伊、勢、物、話、の、本、を、借、り、て、い、る、人、は、早、く、返、し、て、ま、い、。

3年間の思い出を短歌にして  
みられた。先生はもちろん  
ありはりの船西です。

板中3年3月5日(木) 3/2号

短歌



マラソンで一致団結がんばって  
とったとたが優勝だ

(井上雅人)

遠足で大森へ行くといつも雨  
これは絶対た天りれてる

(大西登史)

今までにいろいろな思い出でキタけど  
みんなと合えてよかったなあ

(小川 勉)

3年間毎日毎日野球つけ  
めやすところは甲子園

(香美豊明)

総体で力をだせず負けたけど  
この3年間にいろいろ残らず

(北原誉之)

マラソンでみんなへとへと入試は  
アイトアイトですすべすすわ

(木本 憲)

ついこの前入学したと思ってたのに  
間近に迫った入学試験

(近藤 恵司)

この学校、この学年にこのクラス  
楽しいことがいっぱいあった

(近藤 太太郎)

今日までに3年間の時がたち  
すべてのことが夢物語

(佐野浩幸)

3年間楽しいことやつらいこと  
いろいろあるけれどいい思い出に

(任忠 真悟)

3年生もうすぐして卒業だ  
あとは受験でがんばるだけ

(豊田 和也)

四強で夢やぶられた総体に  
くいは残すもあとのまつり

(西原 龍彦)

ぼやけたい準優勝も夢の跡  
ちきとおなじい体育祭かな

(二條 哲夫)

八強で夢やぶられた総体で  
くいは残るがあとのまつり

(橋本 雅之)

試験官 たのオザンに見えた  
もくもくもぼやけもマインース

(林 慎也)

総体は三回戦であげなく  
負けてしまったこのやっさ

(林 忠弘)

思い出を昨日のように思い出す  
とうとう終わる中学生活

(平野 純也)

思い出がたまたまでまた3年間  
あつというまに卒業だ

(藤田 雅彦)

今までのこの思い出を大切に  
心の中にしまっておこう

(米崎 信弥)

今ほもう思い出とたたあの日々を  
忘れはしないいつに打つても

(山 瀬 加奈)

足ひねりやけりうえ肺えんおしかけ  
大事な時期にバカやだ松

(園 藤 歩)

2年間苦しいこともあったけど  
楽しいこともたくさんあった

(小川 佐代子)

長そりで短かかった3年間  
アツという間の中学生

(真尾 弘美)

3年間けんかしたりあえんだり  
たくさんの思い出ありがとう

(鎌田 智美)

がんばり長板中祭走るのめ  
おやすくてせりおもしろかつた

(窪川 裕美)

学年がアツあがたカシたんも  
かめらやカメラのたんじん

(楠本 香織)

マラソンでせこい思い出したけれど  
走りぬいたらいい思い出出す

(黒川 賀代)

ロマンスは全然打からた中学時代  
高校いたら素敵な恋するそ

(近藤 愛子)

輝いた部活の日々は思い出に  
いつまでも胸にのこっている

(佐藤 友美)

今のみんなみていると同窓会に  
どうなっているのか尋ねたわ

(新宮 加奈)

3年間あつというまにすやさた  
でも思い出は心の中に

(中平 まゆみ)

いろいろと楽しかった3年間  
いつかまた会えるよわ

(広瀬 中かり)

3年間志のやみでもかいてた  
高校行ったらバラ色人生

(古川 理絵子)

思い出は涙を流したあの中間研  
今もわすれぬ心の絆

(松田 真由美)

今までの楽しい思い出胸にひめ  
短かかったと思うこの頃

(元木 理紗)





秋の遠足

私の遠足は、三年間、卒業までやりました。一年生の時は、雨で、行きなかつた。二年生も雨で、三年生も雨で、た、こままで三年間、雨で、三年生の子の中に、雨女か雨男がいるところか、思えませんが。

卒業まで、ベッキーなんてすぐおもしろいなあ、と思います。一年に一回のイベント。なんだから、もう豪華にやりました。でも、モベツが、焼いたたら、困る。寝んぞ、いたり、ウイニナ、か、転ぶ、ま、あ、つ、り、楽しい、ことも、たくさん、ありました。だから、そ、小、は、そ、小、な、り、に、よ、か、つ、た、と、思、い、ま、す。

補習のスタート

10月、ついに補習が始まりました。お、お、受、験、生、だ、い、思、い、だ、し、た、の、も、こ、の、こ、ろ、こ、こ、ま、か、ら、実、績、な、る、と、思、い、だ、し、た、け、れ、ど、自、分、の、た、め、に、な、る、ん、だ、か、ら、と、家、の、帰、り、の、時、に、自、分、に、い、い、聞、か、せ、な、が、ら、う、す、ず、暗、く、な、つ、て、ま、た、空、を、見、上、げ、や、つ、た、る、ぞ、と、か、ッ、ッ、ホ、ー、ズ、を、し、た、り、し、て、い、ま、し、た。なん、と、い、つ、て、も、中、学、生、の、年、受、験、生、。勉、強、と、勉、強、の、生、活、は、か、く、こ、し、て、お、か、な、い、と、い、け、ま、せ、ん。あ、く、ま、早、く、が、い、高、校、合、格、し、た、い、い、。

絶対合格



頑張るぞっ！

中同研

中同研の時は、大勢の先生が見に来て、すごいみんなうらやましました。授業がはじまる、と、ウラスのみん、な、か、次、か、ら、次、へ、と、自、分、の、思、い、が、大、勢、の、先、生、の、前、の、胸、を、は、つ、ま、え、て、い、た、と、思、い、ま、す。見、に、来、て、い、る、先、生、に、同、和、問、題、の、大、切、さ、が、わ、か、つ、て、も、ら、え、た、と、思、い、ま、す。届、か、ら、は、体、育、館、で、三、年、全、体、で、「花」と「友よ」を歌いました。本当に中同研は見に来ていた人、全員に同和問題の大切さを印象づけることができたと思います。

三者面談

自分にとっての三者面談は、十二日が一番のめだった。学校生活についてたくさん、の、注、意、を、う、け、た、り、進、路、の、こ、と、が、実、力、テ、ス、ト、の、結、果、を、見、て、の、反、省、を、言、っ、た、思、い、し、て、と、も、苦、し、い、日、だ、つ、た、と、思、い、ま、す。しかし、僕、だ、け、で、は、た、く、さ、み、ん、な、同、じ、よ、う、な、こ、と、を、言、わ、れ、て、い、る、か、ら、も、と、自、信、を、持、つ、て、い、こ、う、と、い、う、気、が、お、こ、つ、た、こ、と、を、今、ま、で、も、し、っ、か、り、と、覚、え、て、い、る。ほ、な、げ、と、し、ら、う、じ、き、い、つ、て、あ、の、と、き、の、佐、野、先、生、と、お、母、さ、ん、が、は、か、い、た、う、し、か、つ、た、と、思、い、ま、す。だ、か、ら、こ、ん、な、思、い、を、入、試、に、あ、つ、つ、け、て、全、員、合、格、へ、向、け、て、一、直、線、だ、あ、。

マラソン大会

僕は、一、二、年、の、マ、ラ、ソ、ン、大、会、で、か、ん、は、つ、ま、走、つ、た、事、が、な、か、つ、た、け、れ、ど、体、育、の、時、間、に、マ、ラ、ソ、ン、コ、ー、ス、を、本、気、で、か、ん、は、つ、ま、走、つ、て、み、る、と、な、か、な、か、よ、か、つ、た、の、で、本、番、の、マ、ラ、ソ、ン、大、会、も、か、ん、は、つ、ま、走、る、と、十、番、代、に、な、つ、た、の、で、感、激、だ、し、た。み、ん、な、も、か、ん、は、つ、ま、走、つ、た、の、で、か、ん、は、つ、ま、走、つ、た、の、で、三、年、の、中、で、一、番、に、な、り、ま、し、た。僕、も、こ、れ、か、ら、は、何、が、あ、つ、て、も、か、ん、は、つ、ま、走、つ、た、い、と、思、い、ま、す。プ、ー、

進路の調印決定

二月五日、いよいよ自分か受ける高校が決定した。ハニコを押すときに、よしやるぞ、と、い、う、気、が、わ、い、て、ま、す。中、一、の、と、き、か、ら、だ、い、た、い、こ、こ、に、い、ま、た、い、な、あ、と、い、う、高、校、は、決、め、て、い、た。途、中、で、ラ、ン、ク、が、上、の、高、校、を、お、わ、り、お、う、と、思、つ、た、け、れ、ど、無、理、だ、つ、た。結、果、か、ら、し、た、ら、う、エ、心、自、分、の、希、望、の、高、校、を、う、け、る、こ、と、が、あ、つ、た。あ、と、は、自、分、自、身、の、か、ん、は、つ、ま、に、か、か、つ、て、い、る、と、思、い、い、く、か、ら、に、は、英、数、ク、ラ、ス、に、入、り、た、い。あ、つ、つ、三、年、後、に、は、み、こ、と、大、学、に、合、格、す、る。









こ水は橋山先生がつく  
てくた、そせか今回ハワフワ  
そハクにも文章のうまいのは  
ひつくりだ。(ムウウ) (たまにイハク...)



【シャープペンシル】  
各クラスに行く、しらんまにこのシャープかわったんな。書き易いか。などと言って手に取って眺めてしまふ変な癖がついてしまった。新しいもん好きな性格なのかもしれない。みんな結構いろんなシャープを持っている。今、何か製図用のシャープみたいなのを、ようみかけるな。また、教室に行ったときに、書き易さを教えて欲しい。

【猫】  
今、板中に黒猫がいる。入試の出願前日もずっと職員室でくつろいでいた。その猫が、前に車のボンネットに爪で十字架のような模様を描いてくれた。目が点になったが、これは猫神さんの仮の姿かもしれないと、ひきつった笑顔で覗かしく見守っていた。(3年生みんなの合格を祈りながら！)



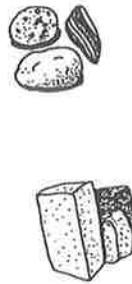
【缶コーヒー】  
この間、自動販売機で缶コーヒーを買おうと100円を握りしめてコインの投入口に入れようとしたとき、何と100円と書いてあった。値段が上がっていた。新聞で、値段が上がったのは知っているのだけれど、思わずウツとなってしまった。一度100円にしたときがあったらいい。けれども自動販売機はなれなくなってしまったために、ずっと100円で売られていた。企業努力も限界で、値段を1000円のままにして量を減らせばいいのではという声もあった。しかし、それをするために、製造機械などを含めてんでもないお金がかかるというのだ。自動販売機には、当たり前だがある。経歴的なものだが、コインを入れると100円が下に落ちる音がある。その音を聞いてからコマ回し後にボタンを押すと当たりやすい。自販機の種類にもよるのだけれど、結構当たったように思う。一度、店のおばちゃんに聞いたことがあって、当りの割合をいろいろ変えれるらしくて、その店では24本に1本の割合にしていた。



【熱帯魚】  
小さい頃、といっても物心ついた頃に玄関で熱帯魚を飼っていた。ポコポコとモーターを動かして水槽に酸素を送り込む音が、私には心地よかつた。水槽の中で気持ちよく泳いでいるエンゼルフィッシュ(魚にとっては、窮屈だったのかも知れないが)は、夏は涼しさを、冬には暖かさを感知させてくれていたように思う。何年か前、アクワリウムとかいって自分の部屋で熱帯魚を飼うことが流行っていた。そこで、自分もやってみようと思ったが、水槽に入れる水の量の悪さや、もろもろの理由で、できずじまいになってしまっている。それに熱帯魚屋さんも町中にあまり見かけなくなつたのも、少し寂しい気がする。



【ホエールウオッチング】  
高知県で鯨を鯨に行ける所がある。浦戸湾から大型フェリーを動かして空戸の沖合まで行き、グレルとまわってとれるツアーだ。案内してくれるのは、元捕鯨船に乗っていた人たちで、鯨の生態やいろいろ親切に解説してくれていた。「運がよかつたら観れるよ」ということだったが、残念なことには、鯨にお目に見ることができなかった。太平洋でのびのびと泳ぐイルカをみただけでも感動もんだ。結果的にはイルカウオッチングになつたしまったが、ちよつと今更にか。今は捕鯨禁止になつている。私が中学校のころ、給食に鯨の肉がでていた。鯨と聞くと給食というくらい身近な食べ物だつたのだけれど。



【土佐桜】  
これも高知県の話になる。土佐國といえは、仁木先生の好きな日本酒の銘柄のひとつ。土佐桜というのは、日本酒じゃなくて、高知で取れる石灰岩の名称。鉄分が白っぽい石灰岩に似て白地に浮きでいるからだそうだ。今、家にはその時取ってきた馬鹿でかい石灰岩が部屋に横たわっている。「石は磨けば光る」とよくわかる。その石灰岩をよく水で洗って、ブラシでよくこすり、仕上げにホワイトラカリーを吹き付けてやると結構部屋のインテリアになるもんだ。なんかマイナーな趣味のような気がするけれども、自分で取ってきた石灰岩で作ってみるといふのも趣があるかもしれない。それから、聞いた話で、今度オリンピックが開かれるスペインには、何処でもあつたような日曜市がある。そこでいろいろな化石が日本円で100円くらいから売っている。日本で買うと20万円もする三葉虫の化石が2万円円で買える。売っているのはモロコシ産とかでやたらでかい。知人にそれをみせてもらって、話を聞いているうちに、これで商売できるんちゃうかと思つたが、スペインに行く旅費が高いことを知り断念した。一度行つてみたい。

【中学生の頃】  
私が中学生の時、一番うれしい日は、やっぱりテストが終わつた日だつた。解放感に浸りながら友人と遊びに行く。友人にオーディオ(ステレオ)が好きなのがあるが、機度なく専門店に通つた。今は、部屋の中で邪魔にならない大ききなもの主流だけれど、その当時は(今もそうかもしれないが)アンプとかカセットデッキとかチューナーなどをメーカをこじや混ぜて買うのが通の買い方だつた。中学生のときに貯金全部はたいて買ったステレオが、今も幾つか買い換えはしたが残っている。友人達と「このスピーカーの音は、ちよつと透明感がないな」とかそれなりに真剣に議論し合つたことを今思うと、ちよつとはずかしく、なつかしい気がする。



